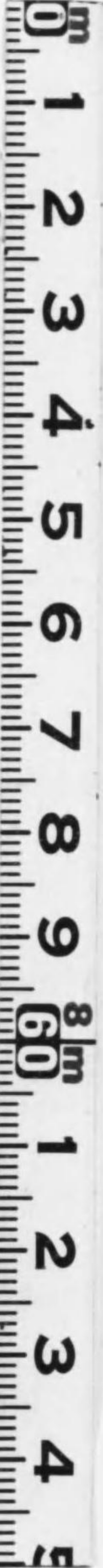


和歌山市の神社

乙

特240

386



始



特240
386



和歌山市の神社



和歌山市役所



明治天皇御製

我國は神のすまななり

神祭るむかのてふり

わするなよゆめ

易之禮書



お宮さまのおそうち

序

神社は惟神の道の表現であつて、神に奉齋し報本反始の誠を致すところである。神社の祭祀は我が國民の生命を培ひ、其の精神の本となるものである。氏神の祭に於て報本反始の精神の發露があり、これに基づいて氏人の團欒があり、又御輿を擔いで渡御に仕へる鎮守の祭禮に於て氏子の和合、町々の平和がある。かくて神社は國民の郷土生活の中心ともなるのである。我が市には四十四の神社がある。夫々祭神由緒を異にしてゐるが、何れも多數の氏子に奉齋され崇敬の核心となつてゐる。然るに都市生活をなす者は居住の動きの繁きため、稍々もすれば精神の中核たる地域神社の存在を忘れ、祭神の由緒を明かにしないものが少くない。斯くて郷土生活の中心を失ひ敬神思想の低下を來すことは誠に憂ふべき事である。本市の今回「和歌山市の神社」を編し、氏神社の認識を深めた所以も亦此處にある。我等は平素子の親に向ふが如く、穢を祓つて祖に近づき、神に奉仕しまことを致して神威を崇め祭祀を通じて更に現御神に歸一し奉らねばならぬ。一言記して序とする。

昭和十八年十二月八日（大詔拜戴二週年記念日）

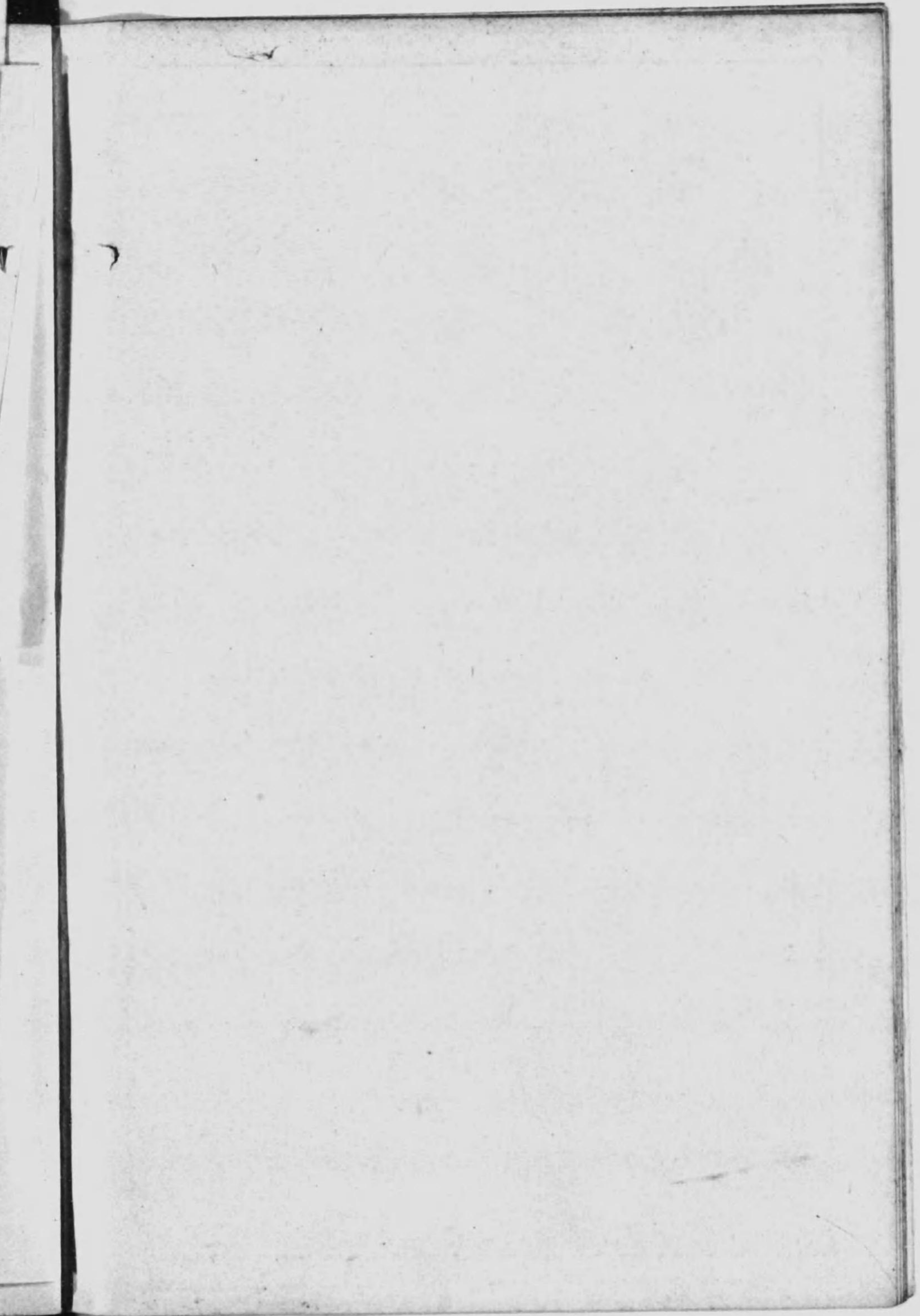
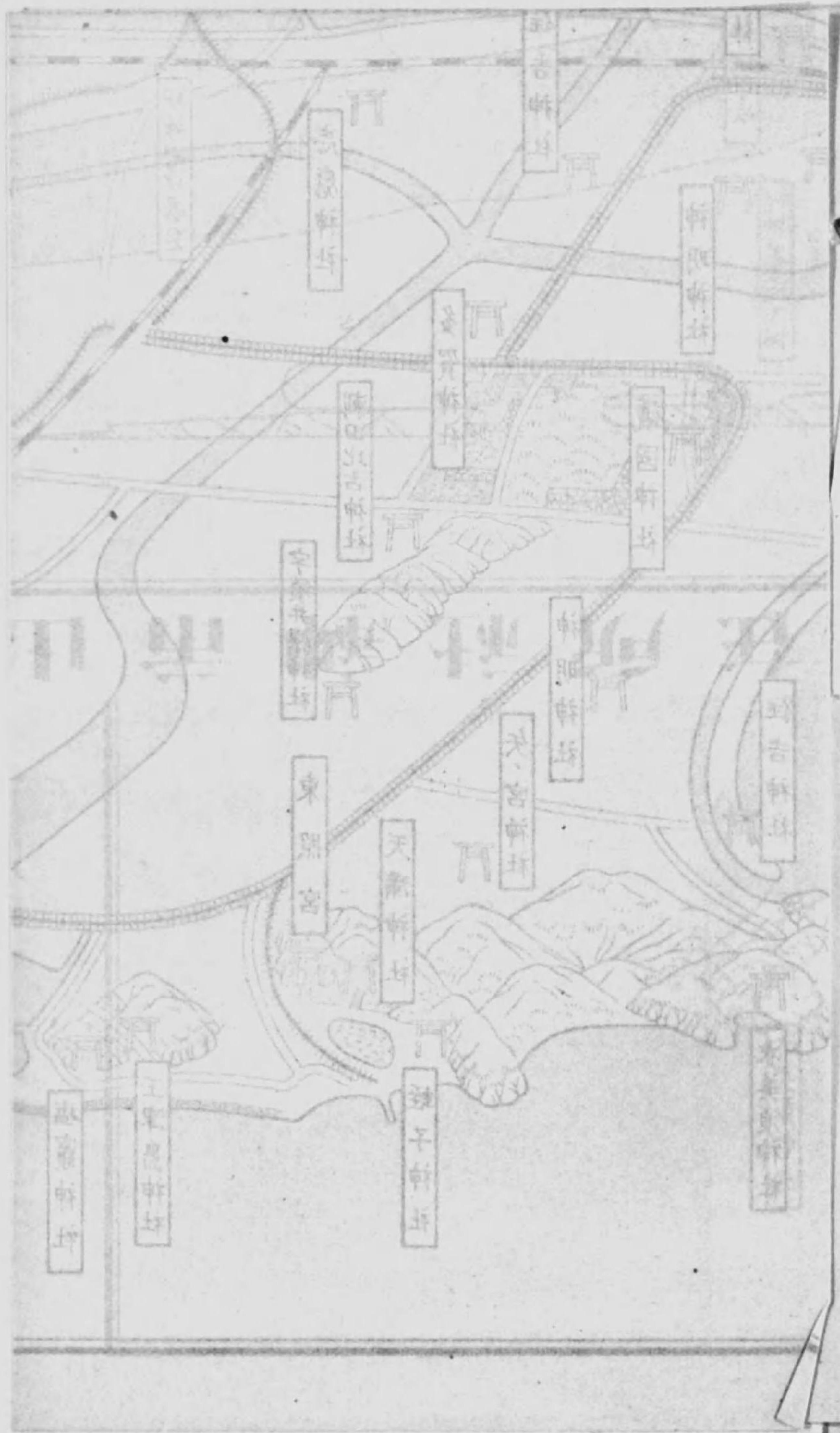
和歌山市學務課長 川 村 徳 治



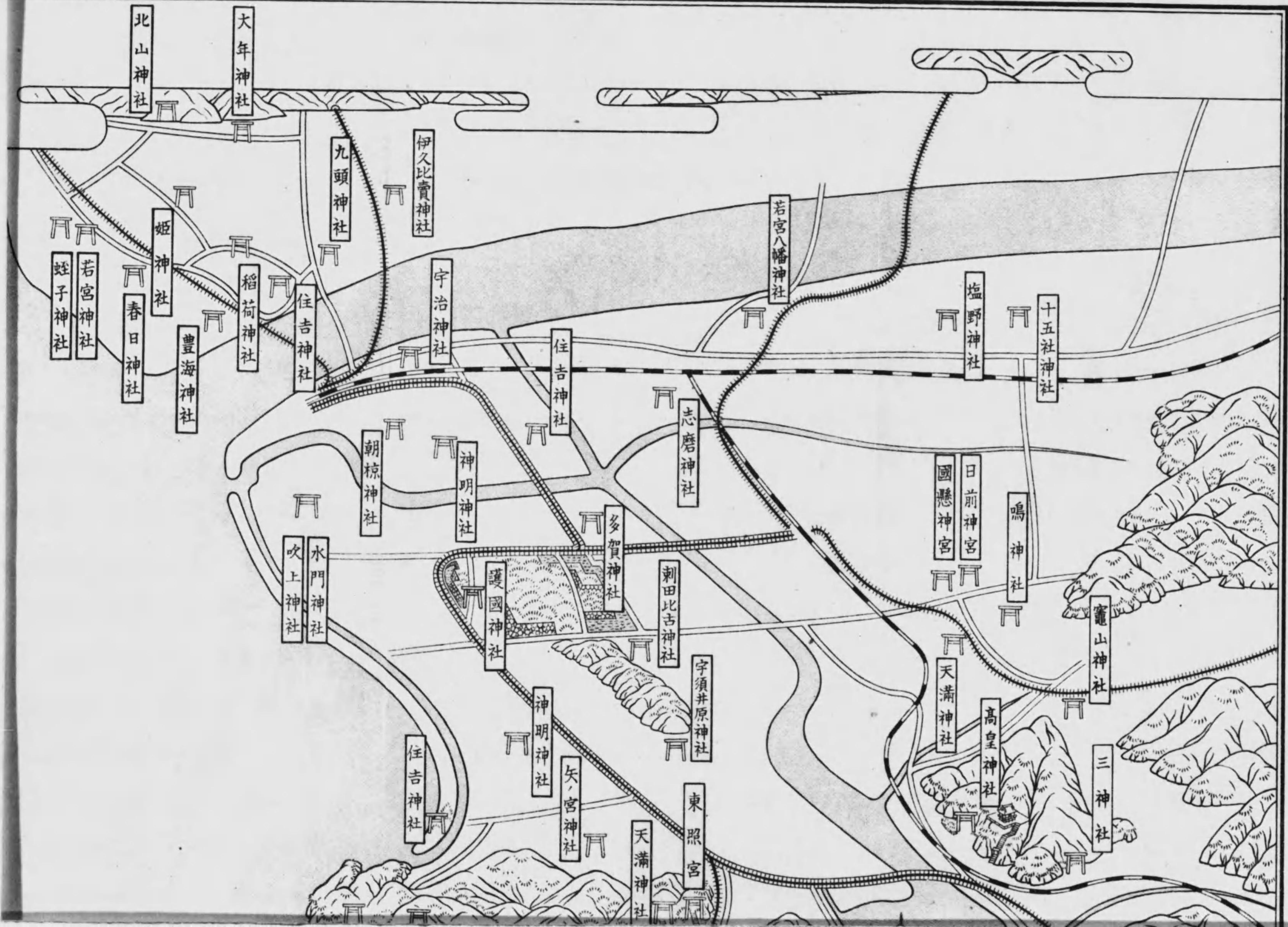
目次

日懸神社	宮	（秋月）	一
龜山神社	社	（和田）	二
和歌山縣護國神社	社	（一番丁）	三
刺田比古神社	社	（片岡町）	四
東照宮	宮	（和歌浦）	五
宇治神社	社	（新魚町）	六
朝椋神社	社	（鷺ノ森明神丁）	七
神明神社	社	（東鍛冶屋町）	八
住吉神社	社	（住吉町）	九
神明神社	社	（今福）	一〇
住吉神社	社	（西濱）	一一
水上神社	社	（小野町二）	一二
吹上神社	社	（關戸）	一三
矢ノ宮神社	社	（字須）	一四
鳴神	社	（鳴神）	一五
若宮八幡神社	社	（有本）	一六
十五社神社	社	（松島）	一七
塩野神社	社	（加納）	一八
志磨神社	社	（中之島）	一九
天滿神社	社	（和歌浦）	二〇

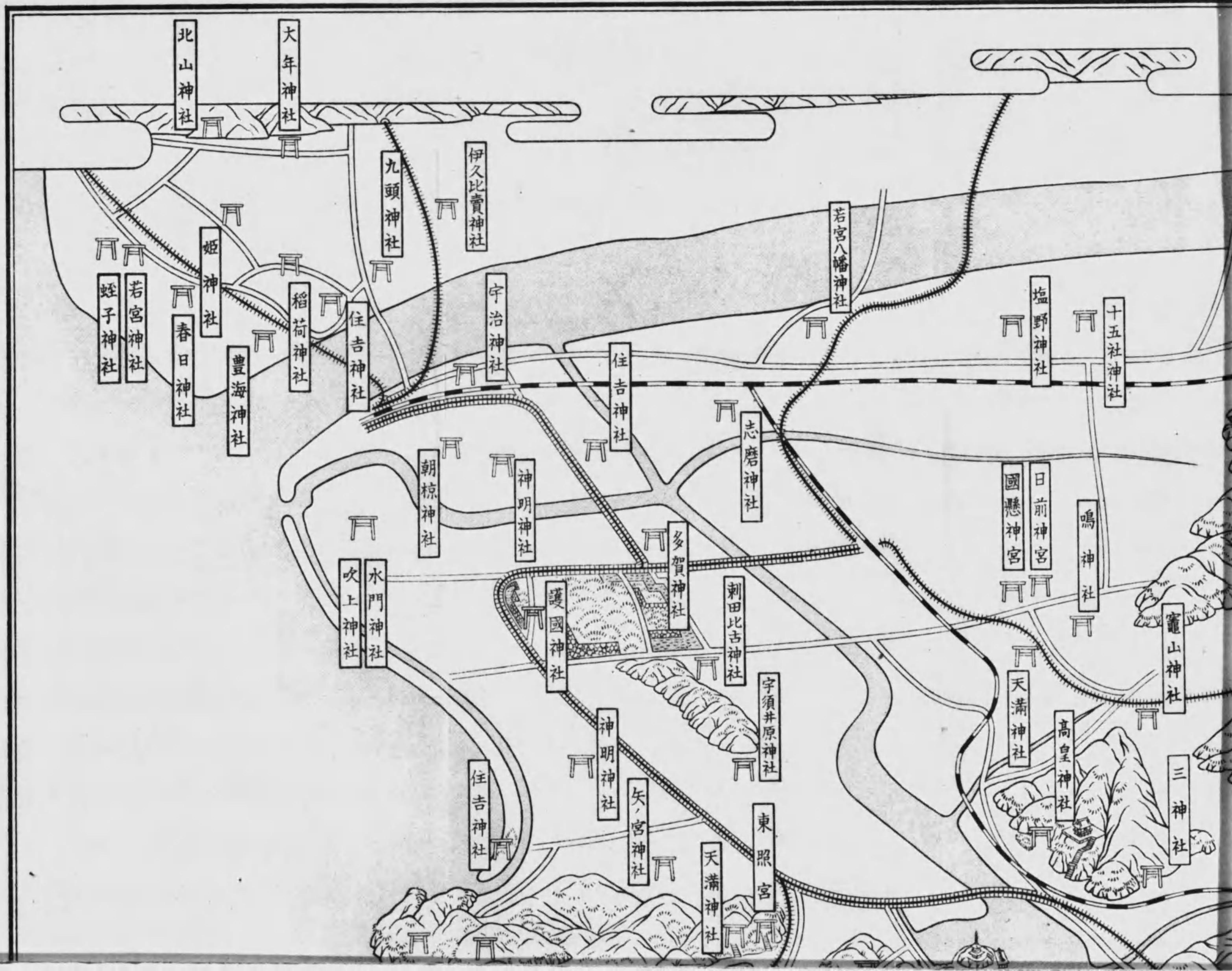
玉津島神社	社	（和歌浦）	二一
豊海神社	社	（淡）	二二
三神	社	（内原）	二三
高皇神社	社	（三葛）	二四
濱ノ宮神社	社	（毛見）	二五
大年神社	社	（梅原）	二六
春日神社	社	（松江）	二七
伊久比賣神社	社	（市小路）	二八
多賀神社	社	（十香丁）	二九
天滿神社	社	（津秦）	三〇
衣美須神社	社	（雜賀崎）	三一
衣美須神社	社	（田野）	三二
塩竈神社	社	（和歌浦）	三三
蛭子神社	社	（和歌浦）	三四
稻荷神社	社	（狐島）	三五
九頭神社	社	（福島）	三六
住吉神社	社	（北島）	三七
姫神	社	（榎原）	三八
北山神社	社	（木ノ本）	三九
蛭子神社	社	（古屋）	四〇
若宮神社	社	（古屋）	四一
和歌山市神社總覽	編輯後記		四二

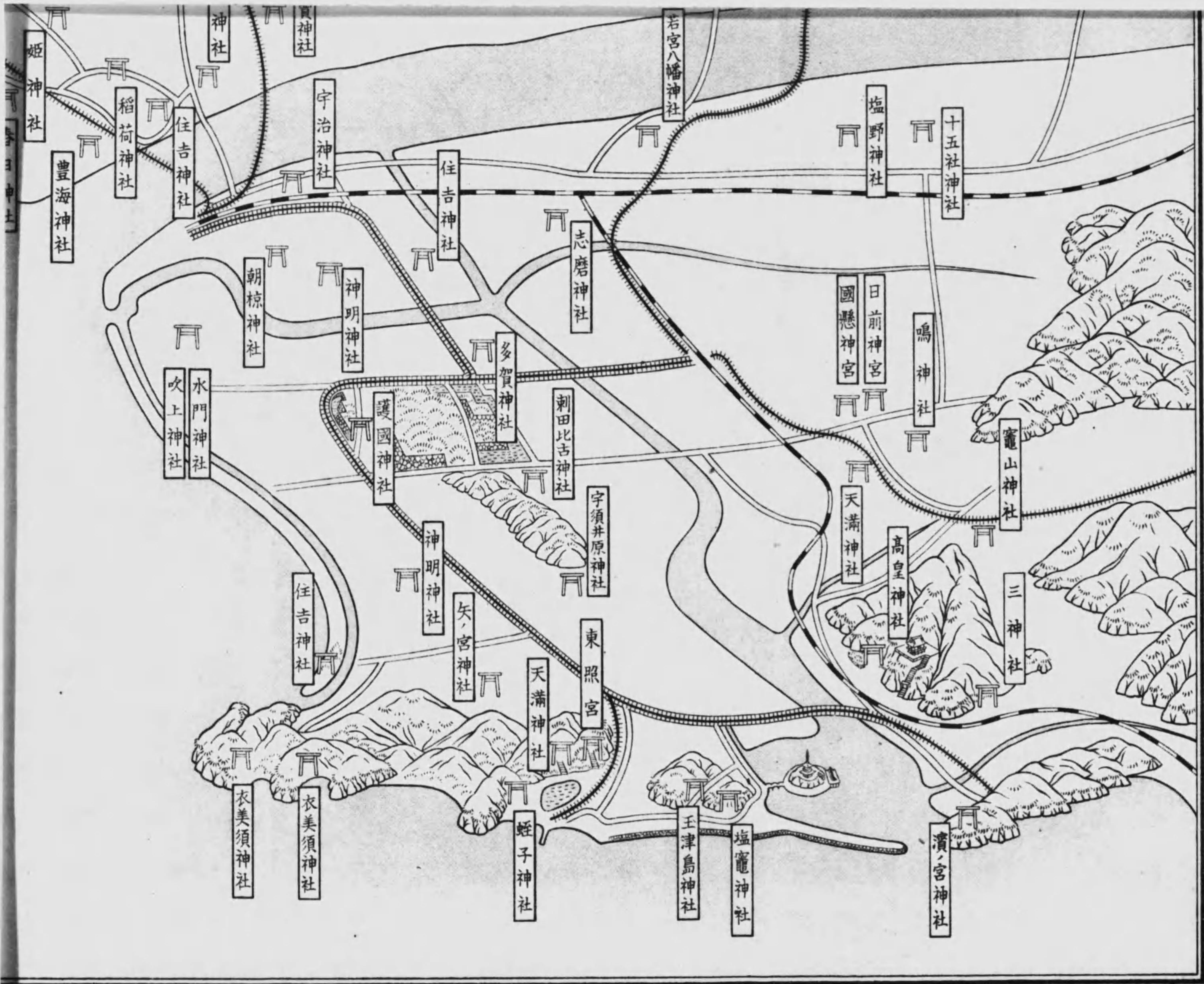


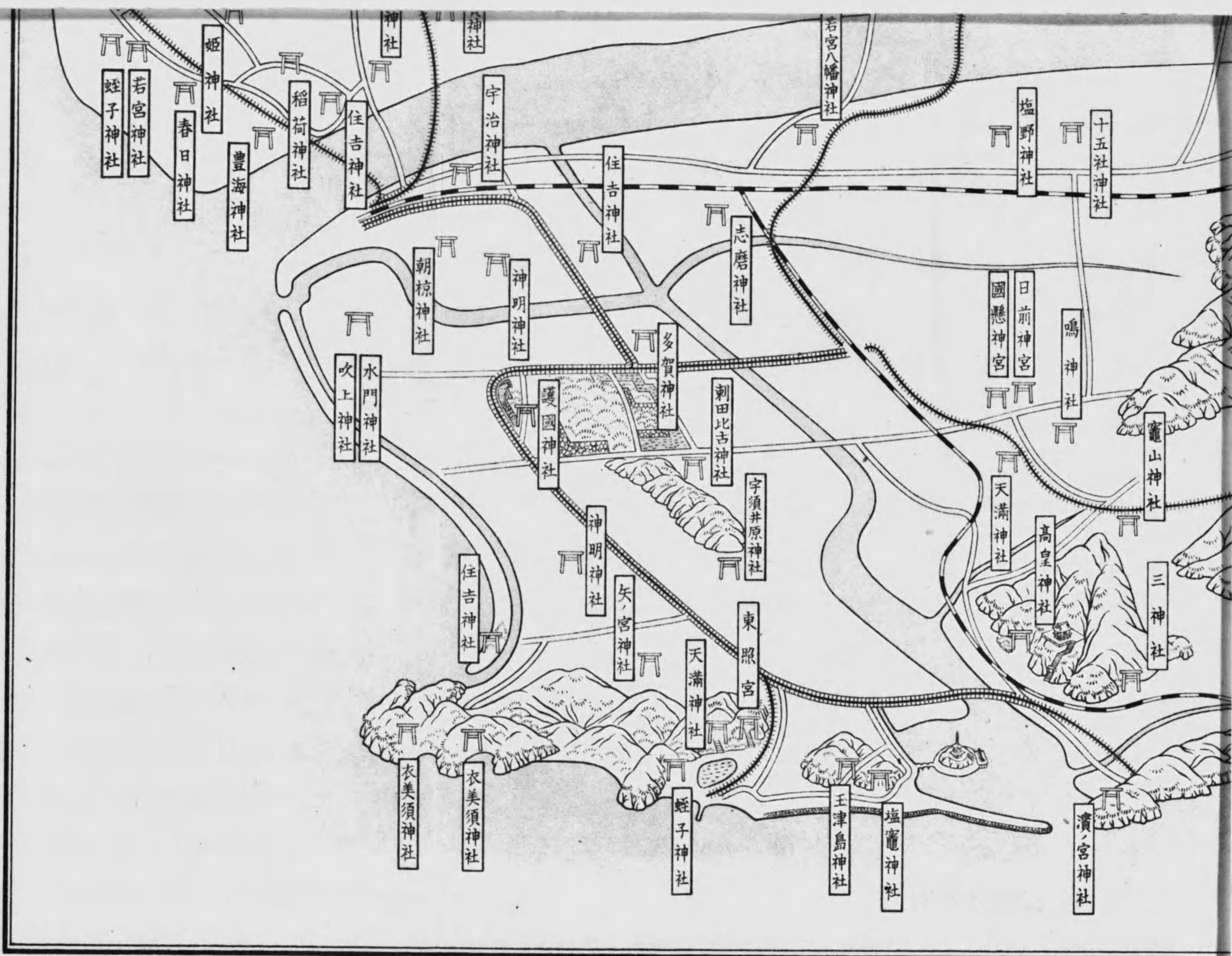
和歌山市神所在地圖

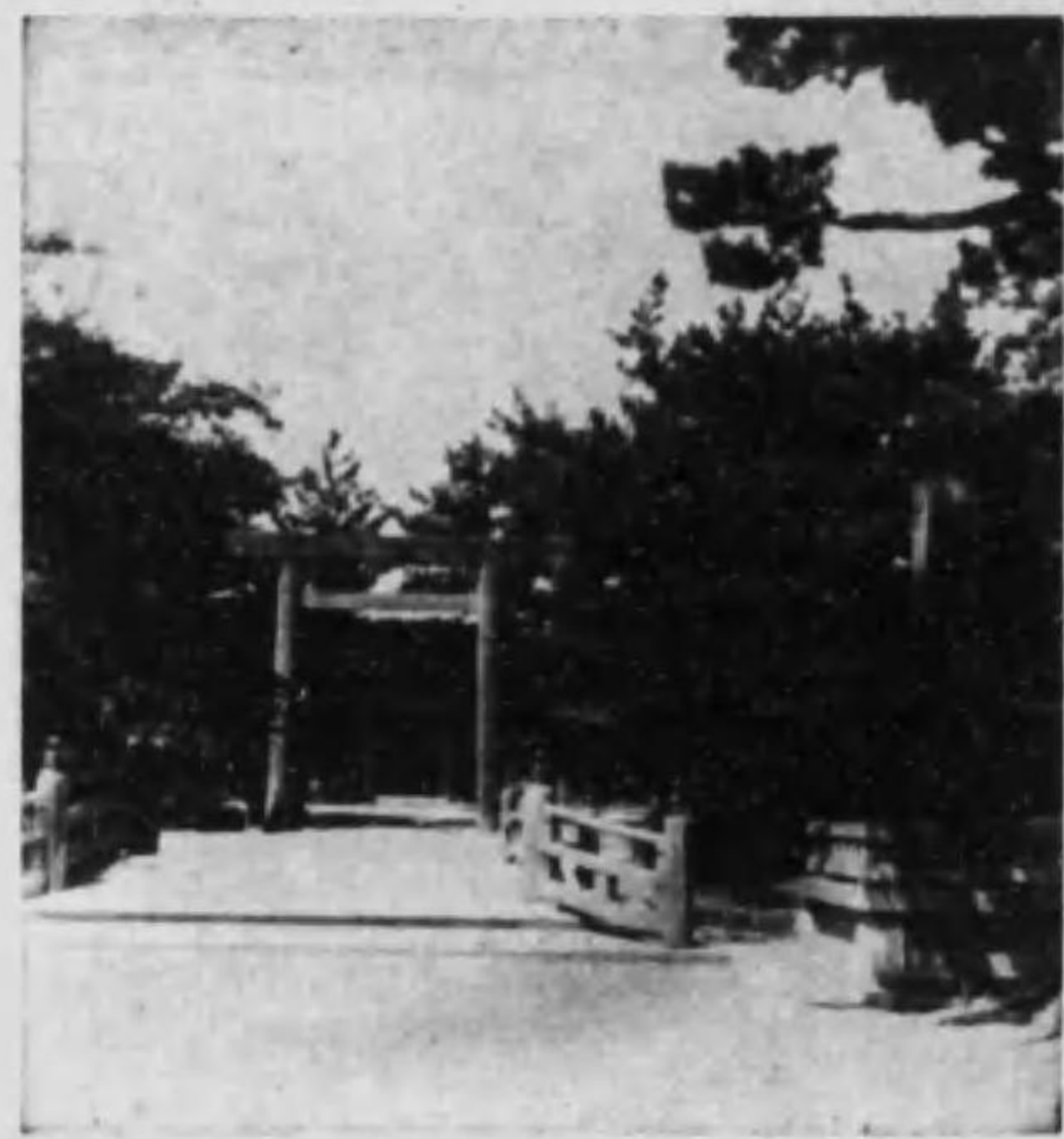


和歌山市社在所地圖









日前神宮・國懸神宮

向つて左の本殿が日前神宮で日像鏡を同く右の本殿が國懸神宮で日予鏡を御靈代として奉齋してゐる。上古天照大神天窟に幽居ましました時思兼命の議に従つて造られた最初の御鏡が日前大神であり日予が國懸大神の神靈である。その次に鑄られたのが伊勢神宮に祀り奉る八咫鏡である。この二種の神鏡は天照大神が皇孫瓊々杵尊を天降らせ給ふ時、三種の神器に添えて賜はつたもので、神武天皇は天道根命を紀伊國造とし名草郡毛見の濱の宮に靈鏡を御靈代として天照大神を祀られたのがこの神宮の起源である。後に垂仁天皇の御代に神託によつて現在の宮居に遷し祀られた。

(例祭日 九月廿六日)



所在地
和歌山市秋月 (東和歌山驛にて和歌山鐵道に乗換へ日前宮前驛下車)

祭神
官幣大社
日前神宮 日前大神

國懸神宮 國懸大神

相殿
思兼命
石凝姥命

相殿
玉祖命
明立天御影命
鈿女命

日前神宮
國懸神宮



竈山神社

所在地 和歌山市和田 (和歌山鐵道竈山驛の南半軒)

社格 官幣大社

祭神 彦五瀬命

彦五瀬命は神武天皇の皇兄にましまし天皇御東征に際し生駒山を越えて大和に入らんとし給ふ時、賊の流矢に傷つかれこの地で雄語びし神去りました。

社殿の後方に命の御陵墓がある。

高松宮宣仁親王妃喜久子殿下御歌

みつからをとのはしらとまつなしてこのすめ國をまもりましけむ

古來武の神として世に崇敬せられてゐる。

大正四年官幣大社に昇格せられ、昭和八年より社殿の改築、境内の

擴張工事が進められ現在の清らかな神域が完成せられた。春秋の祭日

には學生、青年等の奉納武道大會や相撲大會にて賑ふ。

(例祭日 九月十三日)



和歌山縣護國神社

所在地 和歌山市一番丁一番地 (和歌山城内)

祭神 靖國神社に合祀せられたる和歌山縣出身の神靈



明治戊辰役以來各地の戦役に國家のため勳功を樹て別格官幣社靖國神社に合祀せられた和歌山縣出身の神靈を祭祀する爲、明治二十九年以來和歌山縣尙武會主催の下に和歌山城内砂の丸に毎年一回五月臨時祭壇を設け招魂祭を執行して來たが、昭和三年有志等
和歌山縣招魂社創建の計畫を興し昭和大禮御使用の殿材の一部御下賜を受け縣内各公共團體代表者、其他有志で和歌山縣招魂社建設期成會を組織し、昭和十二年六月十一日許可を得て當社を創建す。

昭和十四年四月一日内務省令の規定に依り神社名を和歌山縣護國神社と改る。

昭和十四年五月三日鎮座祭執行。

(例祭日 五月四日)



和歌山縣護國神社

刺田比古神社

所在地 和歌山市片岡町二丁目 (市電縣廳前下車東方約半軒、岡公園の西、砂山の東麓)
 社格 縣社
 祭神 刺田比古命 配祀 道臣命

世に岡の宮と呼ばれてゐる。これは岡の谷にあつて古くから岡領一体の産土神として敬せられてゐたからである。刺田比古命は道臣命の十世の孫であつて欽明天皇の御代、勅を奉じ高麗を伐て功をお

立てになつた命である。暫々兵亂にかゝり荒廢したのを天正年間桑山重晴、社殿を修理して和歌山城鎮護の神として崇敬した。その後徳川吉宗にいたつて産土神として特に尊崇されたが、特に神主は出誕の折の假父なるを以て、將軍となるに及んで開運出世の神として二百石の朱印と太刀一口(國寶)等とを寄進された。

現在の社殿は徳川頼宣の再興にかゝる。今は廣瀬、廣南、新町、吹上刺田比古、番丁の産土神である。氏子數六千戸。



(例祭日 十月十七日)

東照宮

所在地 和歌山市和歌浦西ノ濱 (市電権現前停留所下車)
 社格 縣社
 祭神 徳川家康、徳川頼宣



雜賀山の上に鎮座し「一に権現」と呼ばれる宮である。元和六年舊藩主徳川頼宣が創建せるもの、大正六年縣社南龍神社を合併して徳川頼宣を合祀してゐる。

往古より五月十七日には有名な和歌祭の祭禮が行はれた。社前の鳥居を出て御手洗池を半周し、片男波の松原を通つて御旅所へと神輿を初め供奉の行列がつゞく、母衣舞、連尺、雜賀踊、唐船、餅搗踊、長刀振、請棒、百面等物珍らしいものであつた。本殿、石ノ間、拜殿、唐門等の建築や太刀、刀などの什寶は國寶に指定されてゐる。

(例祭日 四月十五日)



東照宮

宇治神社

所在地 和歌山市新魚町 (市電本町四丁目停留所又は宇治停留所下車)
 社格 村社
 祭神 天照大神 配祀 丹生津姫命、高野童子神

昔は三部大明神とも呼ばれた。鳥羽上皇の勅願所で覺鑊上人が長承年間始めてこの國の葛城山麓に勧請し更に吉野川北岸から今の地に移された。



宇治神社

鳥羽上皇の御信仰厚く奉幣使を立て莊園を給ふて神供燈油料となされた。又神輿三基頓宮に渡御あつたといふ、其後兵亂のため社殿烏有に歸して僅に古の面影を遺すのみであつたが淺野幸長入國の時に社地を復し殺生禁斷の地と定め、徳川頼宣に至つて崇敬特に厚かつた。
 今境内に天然記念物の樟の大樹がある。境内神社八座、宇治一圓の産土神として氏子數一千戸。

(例祭日 十月十一日)

朝椋神社

所在地 和歌山市鷺ノ森明神丁 (市電宇治停留所下車南へ入る)
 社格 村社
 祭神 大國主命

本社は「鷺ノ森明神」と呼ばれてゐる。社傳によると大國主命伯耆の國より難をさけて、この國の大屋毘古神(伊太郎曾神)の許に來り給ふとき天つ空なほ明けやらで物のいろさへわからなかつたの

で其地をさして朝暗となづけられたといふ。

後、こゝに社を建て命を祀り朝椋神社と稱へ奉つた。上古、鎮西將軍兵を率いて神前を過ぎ下馬勝を犯して馬より墜ちおそれかしこみて凱旋の後、本社を建造した。天正年間兵亂にかゝり社領等沒收せられ後、桑山氏再建せるも火災にかゝり徳川氏また再營してようやく莊麗を加へた。有名な靈松は大正六年白蟻のため枯死した。大正十三年境内を整理し本殿を移轉修築し幣殿其他を新營した。境内神社十社、内町西一圓、宇治、内東、始成、番丁の一部の産土神、氏子數三千戸。

(例祭日 十月十五日)



神明神社

所在地 和歌山市東鍛冶屋町 (市電宇治停留所下車)
 社格 村社
 祭神 天照大神



神明神社 (東鍛冶屋町)

昔海草郡楠見村の農人治右衛門、敬神の念が厚く天正年間から慶長年間にかけて伊勢参拜の回を重ねること二百餘度に及んだ。たまく、慶長十九年十二月十八日靈夢によつて大麻を感得して當時、宇治の里に住した明意といふ修験者に托して小祠を造り祭祀を營んだ。

これが當社の由来で、世々火災除けの神と傳へて地方の信心厚く崇敬すること産土神とかはらなかつたといふ。

維新の初、社殿、拜殿等改築された。崇敬者多数あり。

(例祭日 十月十六日)

住吉神社

所在地 和歌山市住吉町 (市電本町二丁目下車)
 社格 村社
 祭神 表筒男命 中筒男命 底筒男命



三柱の神は伊弉諾尊が日向の橋の小戸の檍原で黄泉國にて受けられた汚穢をす、ぎ清められた時に生れました神で、航海の守護神であり、穢を除き悪を祓ひ清淨と幸福とを招来し給ふ靈徳を具へ給ふ大神と言はれてゐる。



住吉神社 (住吉町)

社はもと廣瀬三木町堀詰に鎮座せられたが後米屋町に移り更に此の地に遷座された。末社に鎮ります勝牛の神は堀詰の時から地主の神とともにこゝにうつし祭つたのである。他に境内神社五柱ある。古は六月晦日の御祓や九月十三日の餅投などには参詣人が群をなした。現時は内町東部、始成、廣瀬の各一部の産土神であり氏子數千五百戸ある。

(例祭日 七月三十一日)

神明神社

所在地 和歌山市今福元宮ノ坪 (市電堀止停留所下車)
 社格 村社
 祭神 天照大神 配祀 豊受大神

社傳に神武天皇御東征の御時、こゝに御幸ましまし海の中より吹出た地であるから吹出じまとなづけられたといふ。後福出じまとなつて唱へたが俗に今福じまといふやうになつた。

豊臣秀吉この地に來り四方に便利の地なりと繩張りせんとして物さびた瑞籬の本社を發見し、その皇太神宮にてましますを知り、當國平安利運長久のためとて表指の箭矢に願書を添えて納られたといふ。後徳川頼宣居城經營のとき命じて南方の古松の下に移し寛永五年の十二月又この地に移す。

吹上一部の産土神にて氏子數約七百戸あり例祭日は十月十六日。其の昔、鳥居の許に枝四方に伸びたる古松あり袖摺松といふ。往時社頭を通る人必ず袖をふれたため今その枯木が残存してゐる。



神明神社 (今福)

住吉神社

所在地 和歌山市西濱下川向坪 (市電秋葉山停留所下車)
 社格 村社
 祭神 表筒男命 中筒男命 底筒男命

三柱の神はいづれも航海の守護神である。神功皇后筑紫の宮にましましける時天照大神は「わが和魂は玉体を守り吾荒魂は戦船を導きて韓國にこえ渡らめ」

と新羅征伐のことをおしへ給はれ皇后が「尙いまだ神ありや」と問ひ給ひしに

「日向國橘小門の水底に居て水葉も稚に出居る神、名は表筒男、中筒男、底筒男神います。」

と宣せられた。かくて皇后新羅より凱旋の途中海路を難波に向はれたがお船海中を廻りて進まず、この時この神現はれてお守り申したといふ。水軒の産土神として氏子數三百戸あり、明治四十年無格社金刀比羅神社を合併し境内神社となす。

(例祭日 十月十六日)



住吉神社 (西濱)



水門神社 吹上神社

所在地 和歌山市小野町二丁目 (和歌山市驛南一軒)

社格 村社

祭神 蛭兒神 (惠美須神=水門社) 大國主命 (吹上社)

湊の「お惠美須さん」で知られてゐるのは古くから水門社が鎮座し、大國主命を祀る吹上社が後に
移祀されたからであらう。吹上社は西行の

天くたる名を吹上の神ならば雲はれのきて光あらはせ

の歌で有名である。二社共に一境内に列んでゐる。古より水門社に十一月二十三日には牛祭の名高い神事がある。今は一月十日の初戎に参詣者が雑踏し非常な賑ひである。

境内に聖蹟碑並に神武天皇御上陸記念碑や、天然記念物(彦五瀬乃命)の雄詰の松があつて此地の由緒の深さを物語つてゐる。境内神社二十四社があり湊部産土神として氏子數五千餘戸を有してゐる。(例祭日 九月十八日)



吹上神社・水門神社

矢ノ宮神社

所在地 和歌山市關戸矢田ノ坪 (市電秋葉山停留所下車)

社格 村社

祭神 賀茂建津之身命 (又ノ御名八咫鳥命) 吉井駒鳥神

八咫鳥命は建津之身命といひ神武天皇御東征の御途次中洲に向はせられる皇師を先導し又天皇の御使として敵の陣營に到り賊將を降参せしめた等の武勳をたてた、矢田部姓の祖神魂命の孫であるによつて矢ノ宮といふ。武の神、軍神として崇敬せらる。

天正五年、織田信長雜賀を攻むる時、村民神助を祈願せしに神託ありて「敵兵干潮をまつて攻め來るべし吾村民のために海潮を退くることなるべし」と、果して神託の如く大潮満々として敵兵雜賀川を渡り得なかつたといふ。吉井駒鳥神はもと境内神社であつたが社殿大破のため合祀された。吹上、湊の一部、雜賀崎、和歌浦、雜賀、宮前各部の産土神にて氏子五千三百戸、例祭日十月二十三日には神輿渡御式流鏝馬、競馬の催しがある。猶近く縣社に御昇格する事に内定して居る。



宇須井原神社

所在地 和歌山市宇須三五九 (市電車庫前停留所下車東約二丁)
 社格 村社
 祭神 天照大神 豊受大神 宇須彦神 伊弉諾神 伊弉冉神 事解男神

もと井原神社と稱したが後宇須神社の合併により宇須井原神社と改められた。井原神社は慶安中若狭のくに井原郷の人この地に居してはじめて祠を造り井原明神といつた。いつのころからか痘痘の神と稱せられて井原町の産土神となる。

宇須神社は昔は社殿莊麗であつたが天正中兵火にかゝつて衰えた。もとの祭神は明らかでない。地名に因んで宇須彦を祀るとの説もあつたが後熊野権現に定められた。維新後は宇須神社といひ宇須の産土神となつた。

宇須井原神社
 明治四十一年井原神社に合祀せられた。
 例祭日、十二月十六日。氏子数九〇〇戸。



鳴神・社

所在地 和山市鳴神鳴武
 社格 村社
 祭神 速秋津彦命 速秋津姫命

二柱の神は伊邪那岐神、伊邪那美神の生み給ふところで水戸の神であるが、祭神については鳴神は忌部郷の内であつたから或は忌部氏の祖太玉命を鳴といふ地に祭つて鳴ノ神社と稱したのが後に鳴雷神社と聞神なりと誤つたのではないかとも言はれる。

日前宮の舊記によると中世に國造家から神領を寄附し大禰宜を補任し、祭祀などは神官の内行事を代官とした。之を鳴神行事といふと記されてゐる。享保中官命によつて別當寺の觀があつた威徳院を廢し新に社殿を修造し神職を定めた。鳥居前の老松の間に鳴武神の石碑がある。もとこゝに鳴武大明神があつた。

鳴 現在氏子数三五〇戸、例祭日は十月十二日。



若宮八幡神社

所在地 和歌山市有本出来島 (南海山手線中之島驛下車)
 社格 村社
 祭神 應神天皇 配祀 仁徳天皇 神功皇后

俗に栗林八幡と呼ばれてゐる宮である。後花園天皇の御宇鎌倉に兵亂あり鶴ヶ岡八幡宮も焼失し別當僧、神体を負ひ逃れて市内宇治に來つて社を建て神体を安んじ別當寺を設けて鶴ヶ岡山大道寺と稱した。徳川頼宣入國して今の地に社殿を造營し以て居城の鬼門厄除の守護神としたのである。

なほ境内社に瓦猿で有名な安産守護の日吉山王神社がある。祭神は大山咋神であつてこれは傳教大師比叡山より遷宮して此の地に奉齋し境内に竈を造つて瓦猿一籠を奉納したのによる。

若宮八幡神社

本社に國寶吉宗寄進の糸巻太刀一口がある、氏子數二百五十戸。

(例祭日 十月十五日)



十五社神社

所在地 和歌山市松島西島 (山口行乗合自動車松島下車)
 社格 村社
 祭神 素盞鳴命 大國主命 稻田姫 御子神十二柱

祭神素盞鳴命は天照大神の弟神で高天原を下つて根の國の葦の川上で八岐の大蛇を退治された。その時尾を割いて得られたのが天叢雲劍であり助けられた娘が稻田姫である。命と姫はやがて出雲の須賀に新殿を營まれ國土を經營なされた、その御子神十二柱を合せて祀るから十五社神社といふ。

社はもと松島の島大神の森に鎮座せられたが天正の兵火に焼失して後この地に移つた。

松島一圓の氏神として崇敬され昔は十月十日には戸閉祭の神事があつた。現在氏子數は百戸、例祭日は昔と同じ十月十日である。

十五社神社



塩野神社

所在地 和歌山市加納町 (山口行乗合自動車刑務所前下車北約半軒)
 社格 村社
 祭神 塩野大神 高靈神 八幡神

祭神は伊弉諾命が筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原で夜見國の汚穢を禊祓ひされた時に生れました大神、中津少童命なかつすくなこどものみことであつて塩野大神と申し住江大神と御同体である。

持統天皇の御代に名草郡上加納の庄に鎮座されたが御朱雀天皇の長曆三年七月に大風雨が有り千壽川氾濫して社殿そのために流れ御旅所に止まつた。氏子亦御供をして齊き奉つたのが現在の地である。古宮境内の東に塩野井がある。不淨除の靈水で大神鎮座の節掘出されたもので神明に奉仕する者はこの水で禊祓をする。氏子數九十五戸。

(例祭日 四月十三日)

(六)



塩野神社

志磨神社

所在地 和歌山市中之島西垣内 (省線和歌山驛下車南半軒)
 社格 村社 (縣社昇格内定)
 祭神 中津島姫命 配祀 生國魂神

地名の中之島は(古名中津島の庄)は祭神中津島姫命より轉じたものと言はれる。延喜式所載名神大社で古から朝廷の崇敬厚く國史に神領封戸を寄せられ又屢々神階を贈られたと見へ本國神名帳には

正一位志磨大神とあり、又祭祀社殿の造營などたび々行はしめられた。足利義滿の再興によつて社殿の莊嚴一入増し神威とみに加はつた。戦亂の世となつて神領は沒收せられ天正の兵亂には此地戰場となつて社殿舊記などごとく烏有に歸し焦土となつた。

元和の後、修築せられて稍々舊態に復したとはいへ其の結構は古の五分の一にも足らなかつた。昭和十五年紀元二千六百年記念御昇格奉贊會を組織し目下御造營中で有り、縣社御昇格も既に内定して居る。氏子數四千二百戸。

(例祭日 十月十五日)

(五)



志磨神社(修築中)

天満神社



所在地 和歌山市和歌ノ浦西ノ濱 (市電権現前下東西へ)
 社格 村社
 祭神 菅原道真

延喜元年の春、菅原道真、大宰府に赴かれるとき風波の難をさけて船をこの浦に寄せ老を積む身は浮船にさそはれて遠さかり行く和歌の浦波

と詠まれた。その後、橘直幹、大宰府より歸洛の折、この浦を過ぎ古を追想してこの地に寶殿を建て神靈を祭り奉つたと傳へられてゐる。

現今のは天正の兵火に社頭すべて烏有に歸したあと、慶長年間淺野幸長の再建したもので、社殿、樓門はそれ々々國寶に指定せられて古の面影を止めてゐる。元和七年藩祖頼宣東照宮を營むに際し當社を地主神とし社領を増加せられたこともある。氏子數二千三百戸。

(例祭日 三月二十五日)

(三)



天満神社 (和歌浦)

玉津島神社

所在地 和歌山市和歌ノ浦光明坪 (市電和歌浦下車南半軒)
 社格 村社
 祭神 稚日女尊 息長足姫尊 衣通姫

稚日女尊は天照大神の御妹神に坐し又の御名を丹生津比女尊とも申す。息長足姫尊は神功皇后にて衣通姫は允恭天皇の妃にまします。始め稚日女尊を御祀りしたが神功皇后新羅を征伐し給ふとき靈威

を顯はし給ふたにより皇后此神を尊ばせられ伊都郡丹生川上筒香藤代峯に鎮め給ふ。今天野に在す社はこれである。

以後一神兩所に並び立つて毎年天野社祭禮に神輿玉津島に渡御の事が行はれた。後この由緒によつて皇后を合せ祀つたといふ。衣通姫の合祀に就ては光孝天皇の御夢に姫が現はれ

立かへりまたも此世に跡垂れむ名もおもしろき和歌の浦波の歌一首を詠まれたるによるといはれる。後世いつのまにか姫のみを祀り和歌の神として知られるやうになつた。崇敬者數二千六百戸。

(例祭日 四月十三日)

(三)



豊海神社

所在地 和歌山市湊二二〇〇 (乗合自動車にて湊国民学校前下車)
 社格 村社
 祭神 高御産巢日神

昔、この邊を和田濱といった頃、和田豊海社と呼ばれて今の所の南、景勝の地をしめ地主神として崇敬されてゐた。その後海嘯のためカツカ丘に移るのやむなきに至つたが天和の頃更に奥の坪の地に遷した。

祭神は伊弉那岐、伊弉那美二柱の神の御先祖にあたられ造化三神のうちの一柱の神である。この祭神を崇め奉つて本社は産靈神社とも言はれる。

目下國策上の見地から現在地に遷つて假殿になつてゐるが昭和十九年度には境内の擴張、社殿の造営成つて廣大な神域に莊麗な社殿が建立される豫定である。現在の氏子数七十戸。



(例祭日 十月十八日)

三神社

所在地 和歌山市内原北山 (布引停留所下車東へ三丁)
 社格 村社
 祭神 名草彦命 大國主命 名草姫命

名草彦命は天道根命五世の裔で名草姫命はその妻であると言はれる。名草一郡の地主神として土地を守護せられた。

社は北山の麓にあつて今は此の土地の産土神である。古は名草彦命名草姫命と八大龍王とを奉祀して居たが享保年間八大龍王を大國主命と改められた。三柱命を齊き祀るので三神社と呼ばれるのであらう。古は御免田二段と寄附田少々あつたと言はれてゐる。

由緒に就いては國造家にある内原御縁由帳に詳にしてゐる。境内神社五社あり氏子数二百戸。

(例祭日 十月二十三日)



高皇神社

所在地 和歌山市三葛宮ノ谷千六 (紀三井寺停留所下車北へ四丁)
 社格 村社
 祭神 高皇産靈神たかみけのたま 配祀 日前國懸大神

高皇産靈神は天之御中主神、神皇産靈神と共に造化三神として萬物を創造遊ばされた神である。祭神の由来に就てはこの地の田所氏の祖が吉原より勧請したと言はれる。

土地の東山上にあつて氏神として崇敬されてゐたが寛文の初、火災に罹つて舊記など焼失した。神社記録の中には文化四年當時の神官濱田氏の言として四百年以前の鎮座である由を申傳へてゐる。

古の御免許地であつて明治六年村社に列し同四十二年に三葛裝束松にあつた三葛神社を本殿に合祀した。境内神社二座、三年毎に太々神樂式の神事がある。氏子數四二〇戸。

(例祭日 十月二十三日)



高皇神社



濱ノ宮神社

所在地 和歌山市毛見 (市電濱ノ宮停留所下車西へ三丁)
 社格 村社
 祭神 天照皇大神

神武天皇御東征の時神鏡と日矛を天道根命に託して祭らしめ給ふた。命はこの二種の神寶を奉つて加太浦から木ノ本に移り更に毛見に至つて琴ノ浦の岩上に奉祀した。

崇神天皇の五十一年に豊鋤入姫命が天照大神の神靈を奉つて當國名草ノ濱に遷し祭られた。此時日前國懸両大神は琴ノ浦から名草濱に移り両社宮を並べて鎮座しますこと三年に及んだ。

後、先づ天照大神は吉備名方濱ノ宮へ日前國懸両大神に名草葛代宮に遷りましました。その後、舊地の故を以てこの所に天照大神を齊き祀つたのが本社である。氏子數八百戸。

(例祭日 四月十六日)



濱ノ宮神社

大年神社

所在地 和歌山市梅原字横尾前 (南海鐵道加太支線島橋驛下車北へ約二軒)

社格 村社

祭神 大歳神

大歳神は素盞鳴尊の御子である。この神は五穀のことに功のあつた神であるから農家の守護神として崇敬されてゐる。年といふのは五穀のことで一年とは五穀を一度收穫するところから轉じたといふ。慶長五年桑山重晴再興の棟札があり年越大明神ともいはれる。

天正年間豊臣秀吉南征の時、神田を失つたが徳川頼宣入國以來代々の城主の尊敬を受けた。社前に岩神といふ大岩があつて波浪に浸蝕せられた痕跡が見へ、大昔この邊まで海であつた事を思はせる。神功皇后船つなぎ岩と傳へられる。氏子數五〇〇戸。

(例祭日 十月十五日)

(三)



大年神社

春日神社

所在地 和歌山市松江藤原 (南海加太支線中松江 下車南へ二〇〇米)

社格 村社

祭神 武甕槌命 經津主命 天兒屋根命 姫大神

素盞鳴命 櫛稻田姫 豊玉姫命

古、この邊は飽浦或は二里ヶ濱と呼ばれてゐた。大なる淵があつて、その中の一小島に素盞鳴命、

櫛稻田姫命、豊玉姫命を合せ祀つた南海水産の神社があつた。村の産土神として崇敬されてゐたが建武の時、兵火に罹り社頭舊記など悉く焼失した。其後正平五年後醍醐天皇に奉仕し戦に敗れた藤原戒藏が當地に逃れ來た。そして藤原氏の祖神である南都の春日神社を淵の邊り藤原の地に勧請し往時の南海神社の祭神を合祀す。

春日神社 毎年舊六月一日祭禮あり土地の人は池祭と呼んでゐる。氏子數八百戸。

(例祭日 十月五日)

(三)



伊久比賣神社

所在地 和歌山市楠見市小路 (南海電車紀ノ川驛下車東へ約半軒)

社格 村社

祭神 伊久比賣神

土地の人は市姫大明神といつてゐる。この土地は紀ノ川の川口にあつてたびくの洪水に浸され或は兵火のために焼失して當社の由来も絶えて詳でない。往古天平年間異賊襲ひ來るの時、藤原貞國將

軍として之を追討し凱陣の後、神のお告によつて此社へも賽幣しそれが恒例になつたといはれてゐる。當社は延喜神明帳に登載せられたる縣下三十一社中の一に例せられたる古神社にして往古は例祭日に競馬の催等もあり今尙馬場存在せり。しかし應仁の亂によつて荒廢してしまつた。その後徳川頼宣の時になつて、その遺跡を尋ね當社を其社と考定して稱號を改められ境内に禁殺生の札を立てられてやうやく古祠の姿に復した。現在氏子數一千餘戸。

(例祭日 十月十三日)

(元)



伊久比賣神社

多賀神社

所在地 和歌山市十番丁 (市電公園前下車)

社格 無格社

祭神 伊邪那岐命 伊邪那美命

明治七年に大國主命、倉稻魂神を合祀してゐたが明治三十年に祭神を伊邪那岐、伊邪那美命と定められた。命は天照大神の御親神にましまし大八洲をお造り遊ばされた神である。

「伊勢へまゐらばお多賀へまゐれ御伊勢お多賀の子じや孫じや」と、俚諺にも歌はれてゐる通り壽命の守護神として廣く崇敬されてゐる。お玉杓子の語も天皇の御病氣平癒祈願に用ひたサジお多賀杓子の轉じたものといはれる。

當社は文政七年徳川治宣湊別殿に勸請するところであつたが、廢藩の時水門吹上社境内に移り更に加納町より現今の地に遷座したのである。多賀講崇敬者數一萬二千。

(例祭日 七月十七日)

(元)



天満神社

所在地 和歌山市津秦砦 (和歌山鐵道日前宮前驛下車南へ八〇〇米)
 社格 無格社
 祭神 菅原道真

津秦の天神様で知られてゐる。もと日前宮攝社であつたが創建については天神崇敬の一農民が京都北野社に詣で、靈夢に感じて創建すともいはれ、或は筑紫安樂寺より畫像を勸請すともいはれ又從者

虎丸筑紫で御影をうつし歸り神託によつてこゝに小祠を營んだともいはれてゐる。社地は道真、大宰府に向ふ途中風波の難をさけて立寄り御子好寛と名残を惜まれ

「ふりかへり歸りゆくかも別れにし千早の森の見ゆる限りは」と詠せられた遺跡だといふ。中ごろ別當寺安樂寺があり、安樂寺の天神と稱せられた。

(例祭日 四月二十五日)



天満神社 (津秦)

衣美須神社

所在地 和歌山市雜賀崎南浦坪 (高松より乗合自動車の便あり)
 社格 無格社
 祭神 事代主命

祭神、事代主命は大國主命の御子である。天照大神の使者が出雲に天降り大國主命に國土を皇孫に奉るべく談判をされた時に美保關に出て漁をされて居た。使の天鳥船命と共に急ぎ歸られ申されるに

「この國は天照大神の御子孫の治め給ふべき土地である。快く奉り給へ。」

と、そこで出雲國は天高原の大神に奉還された。

寛永年中の勸請との口碑はあるが詳でない。現在崇敬者五五〇戸。

例祭日は舊の九月二十三日である。



衣美須神社 (雜賀崎)

衣美須神社

所在地 和歌山市田野字駄浦 (市電新和歌浦下車西へ一軒)
 社格 無格社
 祭神 事代主命



左脇に鯛を抱え右手に釣竿を持ち頭に烏帽子をいたゞいて岩の上に片足をたれて座つてゐられる神様である。そのお姿が示すように昔から水に縁のある漁夫、船乗、酒造家などには盛に信仰され毎年一月十日の十日戎は九日の夜の宵戎から客を呼んで商家などは賑ふのである。

この神は前記の通り大國主命の御子事代主命であると言はれ常に漁を好まれ、たま〜天照大神の使者の來られた時も美保關で漁をされてゐたので漁業の神とされたのであらう。

當社は勸請の年月日は詳でないが、この邊の崇敬深く四百二十戸に及び、例祭は舊八月十八日に行はれる。

衣美須神社(田野)



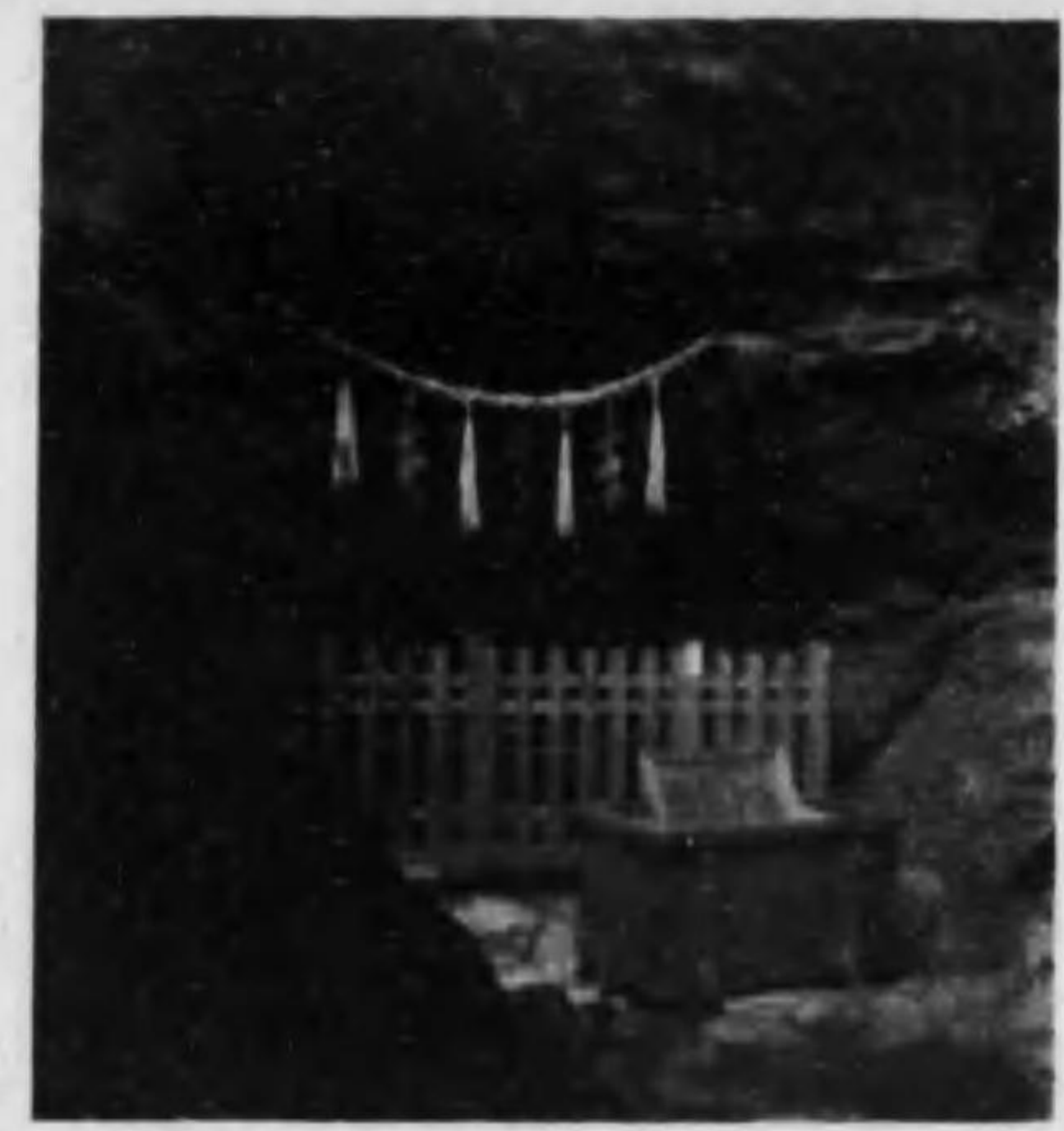
塩竈神社

所在地 和歌山市和歌浦明光浦 (市電和歌浦下車)
 社格 無格社
 祭神 稷戸神四座

古、稚日女尊(別名丹生津姫尊)を伊都郡田野と玉津島との兩所に並ひ祈り毎年九月十六日の田野の祭禮には神輿十餘里の行程を玉津島に渡御し給ふ習であつた。この時、この神輿が渡御し給ふた窟の跡を祀つたのが本社である。そこでこの窟は輿の窟とも輿洗岩とも呼ばれてゐる。又ある書には稚日女神社とも記されてある。

玉津島神社の稷所であつて窟神社と稱したのを大正六年十一月現在の神社名と變更された。世に安産の神として參詣者が多い。崇敬者一千戸。

(例祭日 十月中旬)



塩竈神社

蛭子神社

所在地 和歌山市和歌浦 (市電新和歌浦停留所下車)

社格 無格社

祭神 事代主命

本社の由緒、勧請の年月日等いづれも詳ではない。漁業を主な生業としてゐる土地の関係からその守護神と言われる事代主命が奉祀されたのであらう。

事代主命は雑賀崎や田野の衣美須神社の所で記した如く大國主命の御子で父神にお國譲りを勧め自ら實行せられた神である。その時出雲の美保關で出漁してゐられたので漁の神とも福の神とも崇められるに至つたのであらう。

崇敬者数一五〇戸、例祭日は三月二十三日である。



蛭子神社 (和歌浦)

稻荷神社

所在地 和歌山市野崎狐島 (南海加太支線島橋驛下車北へ四〇〇米)

社格 無格社

祭神 倉稻魂命

稻荷の神は五穀の神である。昔元明天皇の御代に山城國伊奈利山に秦氏の長者が居たが富貴にまかせて増長し、或日餅を的にして弓の稽古をした。するとその矢が的にあたつたかと思ふとその餅が白鳥に化して飛び去つたので初めて罪を後悔して稻の神を祀つたのが、この倉稻魂命であるといはれてゐる。

御親神は素盞鳴尊と大市姫命である。古くから狐を稻荷の使者としていろ／＼の話が傳へられてゐる。

本社勧請の年月日は詳でないが、境内神社として琴平神社があつて大國主命を祀つてゐる。崇敬者百七十戸。

(例祭日 十月十五日)



稻荷神社 (狐島)

九頭神社

所在地 和歌山市野崎福島 (南海加太支線北島驛下車北へ一軒)

社格 無格社

祭神 大國主命

大國主命は素盞鳴命六代の御孫でお名前が大國主神、大穴牟遲神、葦原色許男神、八千矛神、宇都志國玉神の五つある。白兔の傳説で名高い神様で、俗に大黒様とも呼んで福の神として信仰されている。



九頭神社

本社は白河法皇熊野へ行幸の時、名草の野に小社九頭明神を御覽遊ばされ之を洛陽正元寺内に遷宮させられた。

嘉吉年間藤木延春といふ者、この明神の靈夢によつて危難を免れ當地に來り住み守護神とした。その子四郎右衛門尉に至つて天地和合、萬民豊樂を祈願して社地を寄附し之を村内に祀るやうになつたのである。境内神社五座、崇敬者九十五戸。

(例祭日 十月十五日)

(三)

住吉神社

所在地 和歌山市北島一五八 (南海加太支線北島驛下車北東へ三〇〇米)

社格 無格社

祭神 表筒男命 中筒男命 底筒男命

航海の守護神として信仰されてゐるのは神功皇后新羅を征伐し給ふとき、この三柱の神現れて御船を守り奉つたのによるのであらう。



住吉神社 (北島)

三筒男命は伊弉諾尊が夜見の國にて受けられた汚穢をす、ぎ清められた時に生れました神であるから、穢を除き惡を抜ひ給ふ神とも言はれてゐる。

當社は天正七年矢ノ宮より勸請されたものである。境内神社に天満神社、熊野神社、秋葉神社(祭神迦具土神)、琴平神社(祭神大國主命)がある。崇敬者三〇〇戸

(例祭日 十月三十日)

(三)

姫神社

所在地 和歌山市榎原三三二 (南海加太支線八幡前驛下車北へ一軒)

社格 無格社

祭神 市杵島姫命



祭神市杵島姫命は中津島姫命とも申しあける。天照大神が天の安河にて素盞鳴命の佩かれ給ふた十握の劔を乞ひとられ打ち折つて三段となし天之眞名井にすゝぎ、かみ碎いて吹き棄つる氣吹の狭霧によつて最初に生れましたのが多紀理毘賣、次いで生れましたのがこの市杵島姫、つゞいて多藝津毘賣の三柱の女神であつた。

社 此の神々のうち市杵島姫命は宗像の中津宮にゐました。中津島姫と申すのはこのためであらうか。

祭 本社の勸請、由緒に關しては詳でない。境内百三十餘坪、例祭日は十月十二日で、崇敬者五〇戸ある。



北山神社

所在地 和歌山市木ノ本権現山 (南海加太支線八幡前驛下車北へ一軒半)

社格 無格社

祭神 不詳

土地の人は「権現さん」と呼んでゐるが祭神も勸請の年月日も詳でない。

権現と言はれるのは権現山に祀られてゐるためか祭神が権現様であるのに依るか明でないが権現と云ふ名は佛が衆生を濟度せんが爲めに化身して物に應じ此世に化現したとなへられたが後には神號となつたのである。そして多くは深山にあつて山の怪異らしい靈驗が傳へられてゐる。

社 當社も荒神様として土地の人は畏敬し境内を侵す者は必ず神罰を蒙るものと言はれてゐる。境内三十坪餘、民有地中にあり。崇敬者百二十戸。

(例祭日 五月八日)

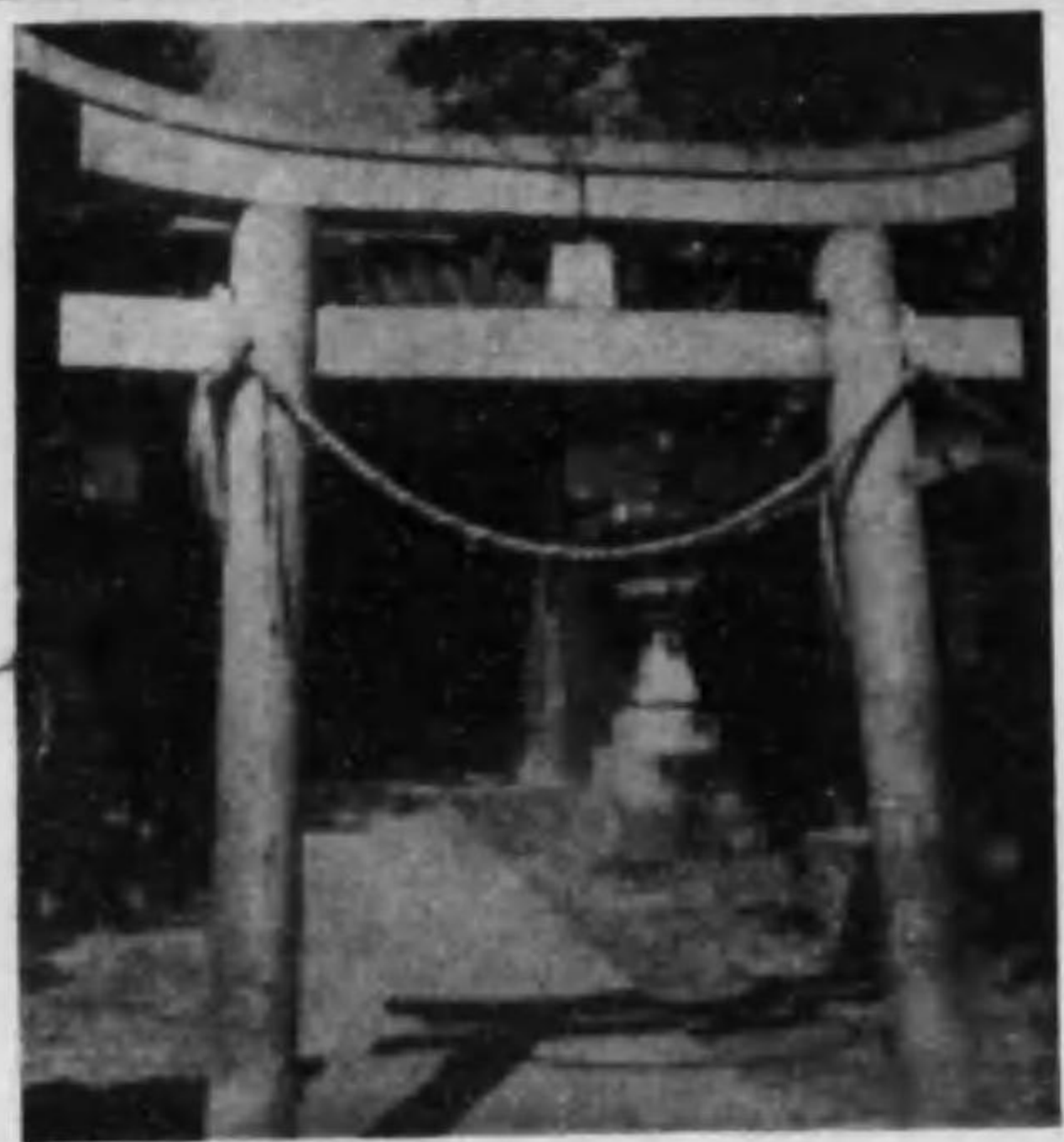


蛭子神社

所在地 和歌山市古屋字宮ノ坪二四八 (南海加太支線八幡前驛下車南へ五〇〇米)

社格 無格社
祭神 蛭子神 住吉神

大黒天と並んで福の神の好一對とされてゐる、鯛を抱え釣竿を持たれた神が蛭子神、即ち衣美須神である。



蛭子神社 (古屋)

この神は生れながらに病弱なために天磐樟船に乗つて遠き島々を宿として海洋中を漂流して居られた。漁の神として崇敬されるものこの間海の幸をえ給ひしことによるのであらう。五体弱しといへども禊がけにて人にかせぎの道を教へ家業におこたりなきことを教へられてゐる。又一説には大國主命の御子事代主命であらうとも言はれてゐる。本社の由緒、勸請の年月日は詳でない。境内百餘坪、崇敬者二百二十戸、例祭日は十月十三日である。

若宮神社

所在地 和歌山市古屋宮ノ坪二六七 (南海加太支線八幡前驛下車南へ約一軒)

社格 無格社
祭神 仁徳天皇

仁徳天皇は第十六代の天皇にましまし八幡神として奉仕せられ給ふ、應神天皇の後を承け難波に都を奠められ、又堀江を掘られて産業をすゝめられた。



若宮神社 (古屋)

民のかまどの煙の立のほることの少いのを御覽になつて、三年間課役を免じ給ひ御自らは御不自由な御生活を遊ばされた。三年の後、民のかまどの煙の盛にたちのほるを喜び給ひ「朕すでに富めり。」と仰せられた御仁君である。本社の由緒、勸請の年月日は未詳であるが、境内二百二十八坪、崇敬者二百二十戸、例祭日は十月十三日である。

和歌山市神社總覽

社格	神社名	祭神	例祭日	氏子(崇敬者)	所在地
官・大	日前神宮	日前大神 相殿 石凝兼命	九月二六日		秋月
官・大	國懸神宮	國懸大神 相殿 玉祖命 明立天御影命 鋤女	九月一三日		和田
官・大	竈山神社	彦五瀨命	九月一三日		和田
和歌山縣護國神社	戰死者ノ神靈		五月四日		一番丁
縣社	刺田比古神社	刺田比古命	一〇月一七日	六〇〇〇戸	片岡町二
縣社	東照宮	德川家康・德川頼宣	四月一五日		和歌浦
村社	宇治神社	天照大神 丹生津姫命 高野童子神	一〇月一一日	一〇〇〇戸	新魚町
村社	朝掠神社	大國主命	一〇月一五日	三〇〇〇戸	鷺ノ森明神丁
村社	神明神社	天照大神	一〇月一六日		東鍛治屋町
村社	住吉神社	表筒男命・中筒男命・底筒男命	七月三一日	一五〇〇戸	住吉町
村社	神明神社	天照大神	一〇月一六日		今福

村社	水門神社	姪兒神	九月一八日	五〇〇〇戸	小野町二
村社	吹上神社	大國主命	一〇月二三日	五三〇〇戸	關戸
村社	矢ノ宮神社	八咫烏命・吉井駒島神	一〇月一六日	三三〇〇戸	西濱
村社	住吉神社	表筒男命・中筒男命・底筒男命	一〇月一六日	三三〇〇戸	西濱
村社	宇須井原神社	天照大神・豐受大神・宇須彦神 伊弉諾神・伊弉冉神・事解男神	一二月一六日	九〇〇戸	宇須
村社	鳴神	速秋津彥命・速秋津姫命	一〇月二日	三五〇戸	鳴神
村社	若宮八幡神社	應神天皇	一〇月一五日	二五〇戸	有本
村社	十五社神社	素盞鳴命・大國主命 稻田姫・御子神十二柱	一〇月一〇日	一〇〇戸	松島
村社	塩野神社	塩野大神・高雷神・八幡神	四月一三日	九五戸	加納
村社	志磨神社	中津島姫	一〇月一五日	四二〇〇戸	中之島
村社	天滿神社	菅原道眞	三月二五日	二二〇〇戸	和歌浦
村社	玉津島神社	稚日女尊・息長足姫尊・衣通姫	四月一三日	崇二六〇〇戸	和歌浦
村社	豐海神社	高御產巢日神	一〇月一八日	七〇戸	湊
村社	三神	名草彥命・大國主命・名草姫命	一〇月二三日	二〇〇戸	内原
村社	高皇神社	高皇產靈神	一〇月二三日	四二〇戸	三葛

編輯後記

日本は神國である。
どこの町、どこの村にも、神々しく立つ鳥居が仰がれるのであるが、さてその宮の祭神に就いて
知ることはあまりに少い。

そこでその由來の概略を述べ、朝に夕に神燈を献じ拍手をうつ神々に一層、清く明るい心をもつ
て奉仕を願ふといふ心から編纂されたのであるが、

不敏にして委囑を受けながら重責を果し得なかつたことを耻づるものである。
必りに寫眞を擔當された中之島校山田光夫先生、表紙及び題畫を描かれた葦原校々長松島藤太郎
先生に深謝して擱筆する。

(高井 三)

無格	北山神社	不詳	五月八日	五〇戸	木ノ本
無格	蛭子神社	蛭子神・住吉神	一〇月一三日	二二〇戸	古屋
無格	若宮神社	仁徳天皇	一〇月一三日	二二〇戸	古屋
無格	濱ノ宮神社	天照皇大神	四月一六日	八〇〇戸	毛見
村社	大年神社	大歳神	一〇月一五日	五〇〇戸	梅原
村社	春日神社	武甕槌命・經津主命・天兒屋根命・姫大神・素盞鳴命・櫛田姫・豐玉姫命	一〇月五日	八〇〇戸	松江
村社	伊久比賣神社	伊久比賣神	一〇月一三日	一〇〇〇戸	市小路
無格	多賀神社	伊邪那岐命・伊邪那美命	七月一七日	崇二二〇〇戸	十番丁
無格	天満神社	菅原道眞	四月二五日		津秦
無格	衣美須神社	事代主命	舊九月二三日	五五〇戸	雜賀崎
無格	衣美須神社	事代主命	舊八月一八日	四二〇戸	田野
無格	塩竈神社	殺戸神四座	十月中旬		和歌浦
無格	蛭子神社	事代主命	三月二三日	崇一五〇戸	和歌浦
無格	稻荷神社	倉稻魂命 <small>くらいなたまひこ</small>	一〇月一五日	一七〇戸	野崎狐島
無格	九頭神社	大國主命	一〇月一五日	九五戸	野崎福島
無格	住吉神社	表筒男命・中筒男命・底筒男命	一〇月三〇日	三〇〇戸	野崎北島
無格	蛭子神社	市杵島姫命	一〇月一三日	五〇戸	榎原

昭和十九年二月廿二日印刷
昭和十九年三月一日發行

和歌山市役所學務課内
編輯兼發行人 學務課長 川村德治

和歌山市四番丁四
印刷人 美濃部林藏

和歌山市四番丁四
印刷所 (西和三四) みのべ印刷所
電話五〇九〇

發行所 和歌山市役所

圖面許可 昭和十八年十二月十日 和歌山憲兵分隊許可濟
寫眞許可 昭和十八年八月廿一日 由良要塞司令部

終

